

第1回 蓄電池産業戦略推進会議 議事概要

日時：2023年9月29日（金）9時00分~11時10分

場所：第1特別会議室（経済産業省 本館 17階）

議事要旨

「資料4：蓄電池産業戦略の関連施策の進捗状況及び当面の進め方について」につき、事務局より説明。委員からの発言要旨は以下のとおり。

1. 製造装置メーカーの競争力強化に向けて

- 製造装置メーカーはノウハウの詰まった中小企業の集まり。ボトルネックの見える化や、在庫、CFPの正確な把握などのメリットがあるものの、日本のカルチャーに沿った仕組み作りや、技術コンタミを防ぐ制度設計が必要。
- 技術ある装置メーカーと電池・材料メーカーの連携が進むように支援いただきたい。
- 他業種からの参入も重要であり、蓄電池産業の予見性を高める努力は必要。

2. 海外市場への参入加速

- 海外の生産拠点獲得についても同時に進める必要がある。日本の成長の起点となる市場の見極めなど、海外戦略をしっかりと打ち立てて欲しい。
- 資源ナショナリズムの動きが高まっている中、特定国に依存しないサプライチェーンの構築が重要。ASEANから再生材を集める事も必要ではないか。

3. 欧州バッテリー規則への対応

- 個社の取組には限界があるため、官民が一体となって対応する必要がある。

4. CFP低減に向けた取組

- 電源構成の再エネ比率向上に加えて、鉱山からのCO2排出を減らさないとCFPを低減できない。CO2排出の少ない鉱物資源の確保が必要。

5. その他

- 人材育成については海外に負けないスピード感をもって、官民で取組を進めていくことが必要。また、育成プログラムのインセンティブ作りや、大学横断的な取組など、様々なツールを念頭に検討して欲しい。人材は日本の産業界全体で不足している点も考慮しなければならない。
- リサイクル技術については、ショートプロセスに向けた技術開発等を早急に進めるべき。また、リサイクルの規模感に応じた投資を行い、国内で循環できる仕組みを早期に構築する必要がある。
- 現在主軸である液系LiBの生産規模確保のため、例えば資源制約を低減するような電池材料開発を行うことが大事。
- アカデミアと産業界の距離が近いのが電池業界の特徴。日本の良いところだけ持っていかれるということがないように注意しつつ、同志国とのアカデミア連携を積極的に行ってはどうか。